

コロナ禍での避難生活における車中泊避難



令和2年6月8日(月)10:00-12:30
開催場所：日高村社会福祉センター
主 催：高知 防災プロジェクト
協 力：日高村社会福祉協議会

日 程

- 10:00 車中泊希望者支援の必要性と訓練概要説明
- 10:30 受け入れ準備
- ・駐車場のゾーニング
 - ・受付準備
- 11:00 訓練
- ・車中泊希望者受付(聞き取り)
 - ・駐車場への誘導
 - ・巡回支援(点呼・状況確認)
- 12:00 振り返り(車中泊避難の検証)
- 12:30 終了

1. はじめに(車中泊避難者の現状と今後の予測)

コロナウィルス禍において、避難所での3蜜(密室・密集・密閉)が集団感染を引き起こすリスクが高いとして分散避難をすることが必要とされている。分散避難の手法としては、避難所の増設、知人宅やホテルへの避難、車中泊などが有効とされているが、ここでは車中泊避難についての提言を行うものである。

1)コロナウィルスの影響下での予測

今回のコロナウィルスの影響を考えると車中泊避難者は激増すると予測される。環境・防災研究所がコロナウィルスが避難にどのような影響を与えるかの調査を行ったところ(複数回答可 1,641名回答)、「感染防止対策をして避難所に行く」28.6%、「車中泊避難をする」38.0%と車中泊避難を選択する人が避難所に行く人を10%も上回る結果となっている。(参考資料3を参照)

現在、自治体ではコロナ対策として避難所の増設、教室の開放、ホテル借り上げなど避難先を分散する対策が模索されているが、メインとなる体育館は温度・湿度・衛生管理が困難であることは過去の災害でも指摘されている。またウィルスは飛沫とともに地面に落ちるため、体育館や教室を避難所とする場合は、間仕切りや段ボールベッドなど床面からの高さを確保するものが必須となる。この準備がないままで床面に寝ることの感染リスクは車中泊の比ではない。

車社会である高知県では車中泊避難者の増加が見込まれることを前提に対策を講じておくことが必要である。また車中泊避難者を分散させず誘導し集中させることで、エコノミークラス症候群予防などの健康管理もしやすくなる。

※新型コロナウイルス感染では血管内に血栓ができやすいことが判明し肺塞栓症(いわゆるエコノミークラス症候群)のリスクが高まるとの報告もある。

2)車中泊避難の現状

過去の災害においても、車中泊避難者は多くみられたが、平成28年の熊本地震では相次ぐ余震により車中泊避難者が急増。グランメッセ熊本には2000台を超える車中泊避難者が集中し、車中泊避難者への支援が大きな課題となり、後述する国会での質問となった。(参考資料1参照)

(また車中泊を行う野外が、避難所に含まれることで災害救助法の適用とするよう10自治体連名で内閣府に対して提案が出されている。(参考資料2参照))

避難所の中心となる体育館は温度・湿度・衛生管理が3大課題と言われるように、体育館での避難生活そのものの是非が議論されている。こうした3大課題に加えてプライバシーのなさやペット問題等で体育館での生活を忌避して車中泊避難をする避難者は少なくなかった。

車中泊避難者が増加する中、エコノミークラス症候群で死亡する例があることで、車中泊は控えるよう広報されていることや車中泊避難者の位置づけがあいまいであることから、支援対象から外されているのが実情である。

コロナ禍での避難生活における 車中泊避難支援について



高知防災プロジェクト
代表 山崎 水紀夫
さんすい防災研究所 代表

自己紹介:名は体を表す(水危男)

17歳:仁淀川河口で遊泳中沖合に流されサーファー
に救助されマスコミデビューを果たす。

18歳:高波にさらわれた小学生を助け、水難救助に
より人命救助表彰を受ける。

※この頃から年賀状の宛名が水危男で届く。

26歳:ダイビングライセンスを取得。

国内海外の海を潜り水喜男となる。

34歳:98高知豪雨発生。災害ボランティアセンター
の代表を務める。

※干支は辰年、星座はうお座。

祖父は村長として11mの豪雪、総雨量900mmの
災害に遭遇。災害復旧の過労で現職死亡(昭和40年)

天災は忘れる前にやってくる(過去の被災地支援)

- 1998年 9 8 高知豪雨 (高知市・災害V C代表)
 - 2001年 高知西南豪雨 (大月町・県域支援本部代表)
 - 2003年 宮城県北部連続地震(宮城県鹿島台町)
 - 2004年 新潟豪雨(新潟県見附市)
高松高潮災害(香川県高松市)
兵庫台風災害 (兵庫県洲本市)
 - 2007年 能登沖地震 (石川県輪島市門前町)
中越沖地震 (新潟県柏崎市)
 - 2009年 台風9号災害 (岡山県美作市)
 - 2011年 東日本大震災 (岩手県大槌町)
 - 2012年 九州北部豪雨 (大分県中津市、竹田市)
-

天災は忘れる前にやってくる(過去の被災地支援)

- 2014年 台風12号(徳島県海陽町)
台風11号(徳島県那賀町)
広島土砂災害(安佐北区)
- 2015年 東日本豪雨 (茨城県常総市)
- 2016年 熊本地震 (熊本県益城町, 西原村, 南阿蘇村)
台風10号 (北海道新得町, 清水町)
- 2017年 九州北部豪雨 (大分県日田市)
- 2018年 西日本豪雨 (愛媛県宇和島市)
北海道胆振地震 (厚真町)
- 2019年 台風15号 (千葉県富津市)
台風19号 (神奈川県相模原市)

災害ボランティアセンター運営のアドバイザー

本日のねらい

1. 緊急避難ではなく、災害発生後の避難所生活を想定
2. 車中泊はエコノミークラス症候群のリスクが高いが車中泊避難希望者は増加傾向
3. 避難所に車中泊希望者を集約して支援を行うことでリスクを軽減
4. 3蜜を避けるために多様な避難を検討
5. 車中泊避難のメリット・デメリットを検証

「車中泊支援に特化した訓練」

被災者の避難先

1. 自宅(建築物危険度判定で赤紙の人は不可)
2. 指定避難所(一般スペース・福祉スペース)
3. 福祉避難所
4. 介護保険施設(緊急入所・ショートステイ)
5. 医療機関(緊急入院)

コロナ禍では以下の2つが追加された

6. 知人宅・ホテルへの避難
7. 車中泊



これまでの避難所:3蜜(密室・密閉・密集)



東日本大震災
岩手県大槌高校: 1,051人



雑魚寝→数日後にベッド・
パーテーションが届く

避難所の三大課題 「温度・湿度・衛生」

1. 温度: 暑さ・寒さ対策
2. 湿度: 体育館に網戸は希
3. 衛生: 手洗い消毒の徹底
土足厳禁



車中泊避難者の増加

1. 避難所がいっぱいで入れない
2. 知的障害・喘息・夜泣きなど
体育館環境
3. プライバシー空間がほしい
4. ペットとの同伴避難ができない



熊本地震ではグランメッセ熊本に 2000台を超える車中泊避難者が集中

- ・震度5程度の余震が続き、家は無事でも屋根の下
は不安という恐怖心で車中泊避難者が急増
- ・個々に分散避難していたために全体像が把握できて
いない(全体を把握するためには集約が必要)



益城町 撮影:山崎水紀夫

コロナ禍での体育館等避難所の課題

1. ウィルスは飛沫とともに下に落ちる
2. 体育館等床面に寝るのは厳禁
間仕切り・ベッド、テント等が必須条件だが・・・。
3. 過去の災害で避難当初からベッド等が揃うことは稀
4. 雑魚寝→数日後にベッド等が搬入
→初動で集団感染が起きる恐れ
5. 受付で振り分けをしても無症状者の
振り分けは困難



上記の課題もあり、避難者の多くは体育館等への避難をためらう傾向

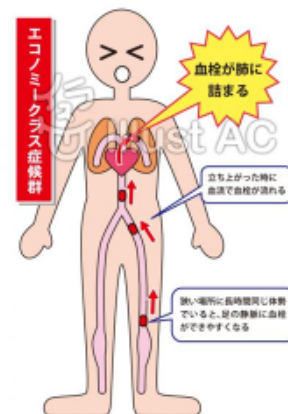
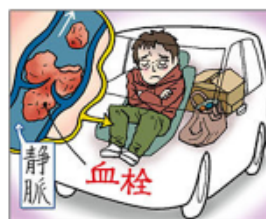
車中泊避難の課題

1. エコノミークラス症候群のリスク
コロナウィルスに感染すると血栓ができやすくなり
リスクが高まることが報告されている
2. 災害対策基本法での位置づけが曖昧
3. 全体の管理が困難

※エコノミークラス症候群の結果は深刻

だが対策は容易

- ・フラット(後部座席)
- ・水分補給と運動
- ・着圧ストッキング



コロナ禍での体育館等避難所のメリットとデメリット

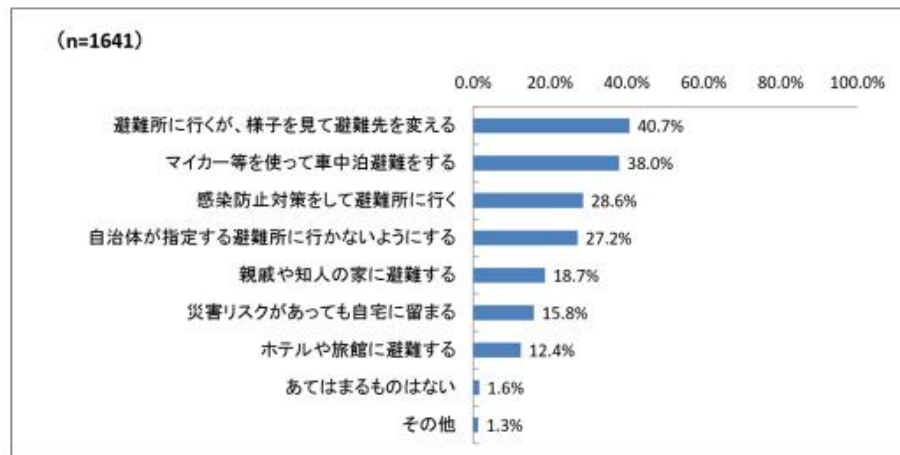
メ リ ツ ト	<ul style="list-style-type: none"> ・法的な位置づけが明確 ・避難者が集約されているので管理がしやすい
デ メ リ ツ ト	<ul style="list-style-type: none"> ・温度・湿度・衛生管理が困難 ・プライバシー空間がない ・避難者にとってストレスが大きい ・コロナウィルス等感染症が発生すると感染爆発(クラスター)を起こす ・床面で寝ることは感染のリスクが極めて高く、不衛生。 過去の災害のように雑魚寝から始まり、数日して間仕切り・ベッドが届いている状況では意味をなさない。 ・避難者一人当たりのコストが高い(段ボールベッド 8000 円～、間仕切り 20,000 円～) ・教室開放の場合は授業再開との兼ね合い
必 須 条 件	<ul style="list-style-type: none"> ・段ボールベッドやパーテーション(避難所開設と同時に必要)、簡易テント

コロナ禍での車中泊避難のメリット・デメリット

メ リ ツ ト	<ul style="list-style-type: none"> ・温度・湿度管理が可能 ・プライバシー空間を確保できる ・車中泊によって避難所での密度が軽減される ・コロナウィルス等感染対策としては有効である
デ メ リ ツ ト	<ul style="list-style-type: none"> ・エコミークラス症候群による生命の危険がある(フラットにできれば OK) ・全体像の把握が困難 ・災害救助法での適用が不確実である(在宅避難者と同じ扱い) ・単身世帯は別として世帯全員の収容能力はない
必 須 条 件	<ul style="list-style-type: none"> ・広い駐車スペース ・トイレ、手洗いの設置

(前問で「1. 影響する」と答えた方)新型コロナウイルスの感染拡大は、あなたの避難行動に具体的にどのような影響を与えますか。

新型コロナウイルスの感染拡大が避難行動に影響すると回答した人(1641人)のうち、40.7%は避難所の様子を見て避難先を変えると回答している。



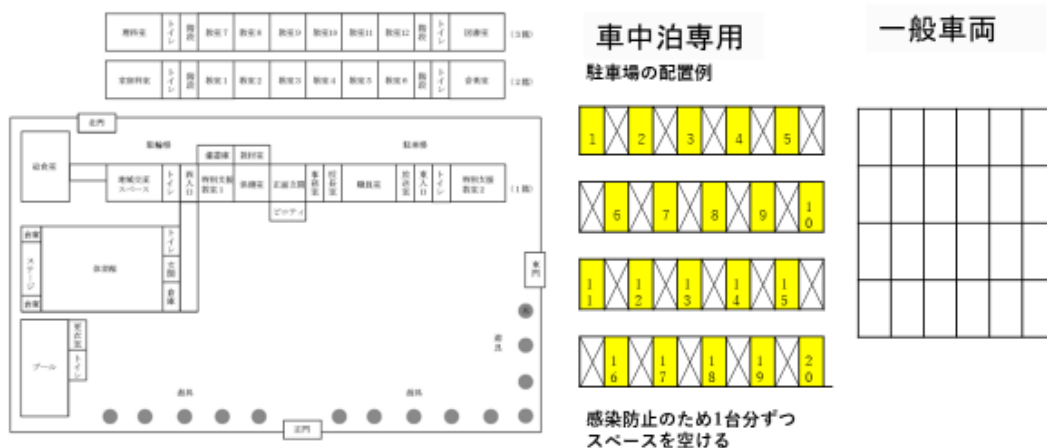
車中泊避難者への災害対策基本法での位置づけと解釈

1. 基本的には在宅避難者と同じ扱い
2. 熊本地震を受けて国会での質問と政府答弁では・・・
車中避難者に相当する者に係る措置を直接的に規定してはいないが、車中避難者は同法第八十六条の七の「やむを得ない理由により避難所に滞在することができない被災者」に該当。生活環境の整備に必要な措置を講ずるよう努めなければならない

※避難所で一時的に車中泊と判断:避難所滞在者と解釈可能

車中泊支援事前準備(ゾーニング)

1. 車中泊専用と一般車両のエリア分け
2. 感染予防のため1台分ずつスペースを空ける
3. 駐車位置に番号表示



車中泊支援受付

1. 通常の避難所受付→車中泊受付へ
2. 車中泊の状況聞き取り
 - ・後部座席等水平な状態を保てるか
 - ・運転席・助手席での車中泊は原則として認めず、避難所を勧める
3. 「車中泊を希望される方へ」の配布と説明
4. 「車中泊者用避難カード」と「駐車許可証」発行
 - ・「車中泊者用避難カード」は本部保管
 - ・駐車位置番号を伝え「駐車許可証」発行

※書類は手渡しせずにとってもらう(感染防止)

車中泊の支援について

1. 巡回支援
 - ・8時(点呼)と10時から18時までの1時間ごと
 - ・天候や温度で柔軟に対応
2. 仮設トイレや洗面所の設置
 - ・感染予防のため避難所との利用導線は分ける
 - ・トイレの設置や待つ場所は蜜にならないように
3. 弾性(着圧)ストッキングの備蓄も検討
 - ・ベッド、間仕切りより安価で
 - ・保管も場所をとらない
4. 支援は一般の避難所と同じ



最後に

1. コロナ禍がなくても車中泊は増加傾向
 - ・体育館等は温度・湿度・衛生管理が困難
2. エコノミークラス症候群がなければ分散避難に有効
 - ・エコノミークラス症候群は結果は重大、予防は容易
 - ・フラットにできれば問題はない
3. 避難所は多様な選択肢と柔軟性を持つ
 - ・避難所・宿泊施設・車中泊
4. 車中泊支援を導入するならば事前啓発を
 - ・車中泊受入避難所の場所と収容台数
 - ・後部座席等、水平な状態でのみ許可
 - ・着圧ストッキング等の個人備蓄

提言(車中泊避難者への支援):訓練ポイント

これまで車中泊避難は、エコミークラス症候群による死亡例の報告もあるため、「車中泊避難は控えるように」というのが一般的であった。ただ、コロナウィルス感染拡大防止の観点から避難所での感染リスクを恐れ、車中泊避難者は更に増加することが確実視されている。

死亡リスクがあるとは言え、エコミークラス症候群の予防は容易で少し注意を払えば十分に予防が可能である。「推奨できないから関与しない」ではなく、車中泊希望者を分散させず、避難所に誘導・集約することによって、支援を行うことが分散避難において有効と思われる。

(1) 支援策

①車中泊希望者を集約し、コロナウィルスはエコミークラス症候群のリスクが高まることを説明し、一般避難所への避難を勧めること。そのうえで車中泊を希望する方には支援を行うこと

②車中泊避難者用の駐車スペースを確保して避難者を集約して支援すること

③車中泊希望者は後部座席等、水平を保てる状態の者に許可すること

④間仕切りとベッドのない体育館等の広い空間は感染リスクが高いため、車中泊の併用など時系列を意識した避難所運営をすること

⑤避難が長期化する場合は仮設トイレ・洗面所を設置すること。その場合は一般避難所との導線に留意すること。また駐車位置も避難者の状態によってトイレに近い、見守りしやすい場所で決定し再配置を行うこと。

(2) 留意点

①車中泊避難者を想定して、エコミークラス症候群の予防となる着圧ストッキングなどの備蓄も行うこと

②自治体として車中泊避難を推奨しているような誤解を与えないよう、情報発信にあたっては十分に配慮すること

③車中泊避難者は「やむを得ない理由により避難所に滞在することができない被災者」に解釈が可能であり発災後は柔軟に対応すること

※エコミークラス症候群は、座った状態など足を下にして長時間同じ体制で過ごすことで発症するものであり、後部座席と荷台をつなぐなど水平に保つことができればリスクはほぼなくなり対策は容易である。必ずしも車中泊＝エコミークラス症候群のリスク大ではないことを理解する

車中泊避難者を支援する際の留意事項

1) 車中泊避難者の受入フロー

(ア)ゾーニング:車中泊希望者と一般車両のエリア分け

- ・場所の決定:一般避難所との導線に留意しトイレ手洗いに近い場所に設置
- ・感染予防のため駐車スペースを1台ずつ空ける
- ・駐車スペースに駐車番号を表示(ガムテープ等で)



2. 受け入れ:

- ・受付:避難者カード(感染予防のため手渡しはせず回収ボックス等で回収)
- ・後部座席等水平な状態を保つことができることを確認。
〔運転席・助手席等、足をおろした状態の者には原則として許可しない。〕
エコノミークラス症候群のリスクを説明し一般の避難所を勧める
- ・車中泊許可者には通常の配布物+車中避難に当たっての留意事項の配布
- ・専用駐車場に誘導



3. 支援:役割分担や支援策の決定(事前に決定しておくことが望ましい)

- ・担当:避難所管理班または車中泊避難者用の班を新設
- ・支援:巡回による毎朝の点呼(健康チェック)
- ・エコノミークラス症候群の予防には特に配慮する。着圧・弾性ストッキングを備蓄して配布することも検討
- ・長期化する場合は仮設トイレ・洗面所の設置(導線に留意)

※一般避難所と隔絶した道の駅など車中泊専用避難所を設置する場合は、運営体制などさらに詳細に定めることが必要。

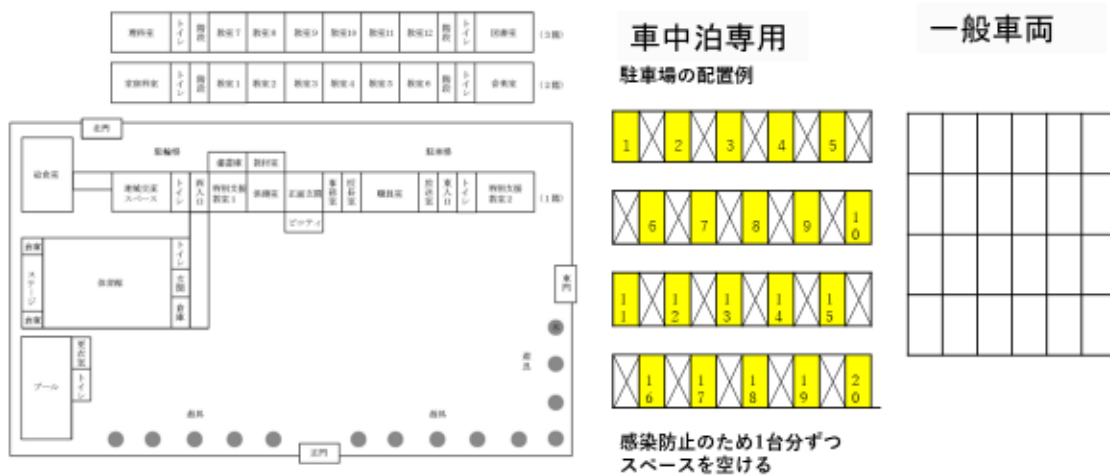
2) 運営体制は高知県避難所運営マニュアル参照

3) 衛生管理(仮設トイレ等の設置)

トイレの数については、災害発生時:50人に1基。長期化の場合は20人に1基(平成28年4月内閣府(防災担当))を目安としている。体育館と車中泊者用の駐車場の導線を考慮して仮設トイレを設置する。この場合、感染予防のため体育館利用者と車中泊者用とのトイレを共有させないことも検討する必要がある。トイレの設置の間隔を空けるなどトイレ待ちの間に密接しないような工夫が必要。

車中泊支援事前準備(ゾーニング)

1. 車中泊専用と一般車両のエリア分け
2. 感染予防のため1台分ずつスペースを空ける
3. 駐車位置に番号表示



(表面)

避難者カード		記入日	月	日	No.
氏名		年齢			
住所		性別 男・女			
		(該当者は○) 世帯主			

駐車許可証	
車両 NO	
駐車番号	
利用人数	
○○避難所管理責任者	

車中泊希望者の状況シート

・Aさん. 独身女性

1) 世帯の状況・避難人数

・女性(30歳)

2) 車の種類と車中泊希望人数

・軽乗用車(後部座席はフラットにできない)

・1人

3) 特記事項

- ・避難所に来て先ほど受付をしたが、避難所(ホール)に案内され場所を割り当てられたが、隣の男性が大きないびきをかいて昼寝しており、音に敏感なので夜、眠れないと思い、車中泊希望に変えた。
- ・後部座席は荷台に倒せないで運転席と助手席を使って寝ると主張している。



Bさん. ペット連れ2人世帯

1) 世帯の状況・避難人数

・夫(28歳)

・妻(30歳)

・トイプードル(室内犬)

2) 車の種類と車中泊希望人数

・普通車

・2人と1匹

3) 特記事項

・ペットと一緒にのため車中泊を希望。



Cさん. 4人世帯

1) 世帯の状況・避難人数

・夫(50歳)、妻(48歳)

・母(75歳)、長男(17歳)

2) 車の種類と車中泊希望人数

・普通車

・4人

3) 特記事項

- ・夫と長男が運転席と助手席、妻と母が後部座席をフラットにして寝ると主張
- ・夫と長男は避難所に促すも車で寝ると言い張る。
- ・母は夜中にトイレに2回ほどおさるので、建物の近くの駐車スペースを希望



Dさん. 4人世帯

1) 世帯の状況・避難人数

・夫(45歳)、妻(40歳)

・長女(18歳)、長男(17歳)

2) 車の種類と車中泊希望人数

・普通車

・4人

3) 特記事項

- ・夫と長男が運転席と助手席、妻と長女が後部座席をフラットにして寝ると主張
- ・医療用着圧ストッキングを前座席で寝る2人分を持っている



弾性ストッキング

目的の圧迫圧 男女兼用



医療機関取扱品

Eさん. 3人世帯

1) 世帯の状況・避難人数

・夫(50歳)、妻(33歳)

・長女(13歳)

2) 車の種類と車中泊希望人数

・軽貨物

・3人

3) 特記事項

- ・夫が運転席、妻と長女が後部座席をフラットにして寝るとの申し出
- ・運転席の夫は避難所に促すと素直に応じる



Fさん. 6人世帯

1) 世帯の状況・避難人数

・夫(50歳)、妻(52歳)、父(72歳)糖尿病

母(69歳)、長男(27歳)軽度知的障害

次男(18歳)ぜんそく(呼吸器疾患)

2) 車の種類と車中泊希望人数

・ステップワゴン

・6人

3) 特記事項

- ・テントを持参。車とテントに分かれて寝たい。
- ・テント分も合わせて3台分の駐車スペースがほしい
- ・長男に軽度の知的障害、次男が喘息、父が糖尿病なので一般避難所は無理。車中泊と避難所に分散すると一人に負担が集中するので家族全員でいたい



車中泊を希望される方々へ

新型コロナウイルス感染では血栓ができやすいことが判明しており、車中泊はエコミークラス症候群の危険性を高めるため、避難所を利用してください。やむを得ず車中泊をされる方は以下の点に注意してください。

- ◇避難者カード(1人1枚)と避難者世帯票(家族で1枚)の登録を行ってください。車両ナンバーも記入してください。
 - ◇駐車スペースは先着者優先ではなく、状況の変化に応じて移動をお願いすることもあります。
 - ◇エコミークラス症候群にならないよう以下の点に注意してください。
 - ・寝る場所はフラット(平ら)にする。(タオルや衣類で凸凹を埋める)
 - ・水分補給と適度な運動・マッサージを心がける。
 - ・足を下にして長時間同じ体勢で過ごさない(寝ない)。
 - ◇避難者の皆さんの健康管理のため、適宜点呼をとり伺います。
 - ◇車内を完全に目隠しせず、1か所は外部から見えるようにしてください。
 - ◇車で外出される際は、駐車されないように各自で対応をお願いします。
 - ◇感染症防止のため駐車位置は1台ずつ空けるようにしています。
 - ◇エンジンをかけたアイドリング状態は必要最小限にしてください。
 - ◇就寝の際は必ずエンジンを切るようにしてください。
- ※その他ルールは避難所と同じです。別途配布分をお読みください。

「エコミークラス症候群」を予防するための足の運動

- ①足の指でグーをつくる ②足の指をひらく ③足を上下につま先立ちをする



- ④つま先を引き上げる



- ⑤ひざを両手で抱え、足の力を抜いて足首を回す



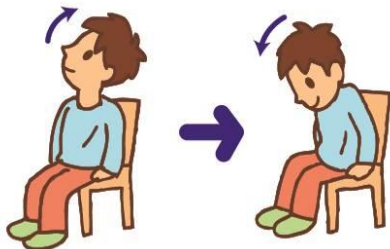
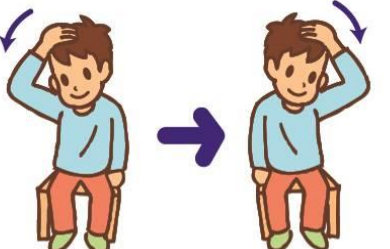
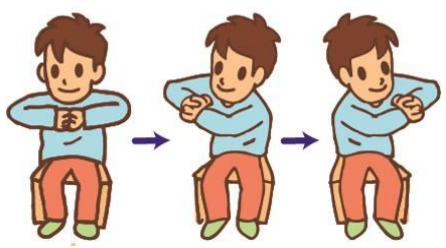
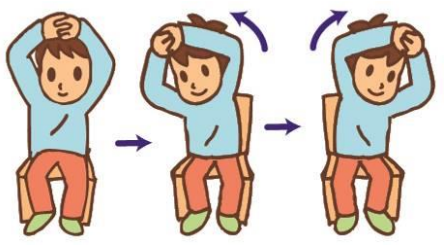






- ⑥ふくらはぎを軽くもむ



出典:厚生労働省(2016年)



災害時に活用できる防災体操

<p>①頭を前後に10秒ずつ倒す</p> 	<p>②頭を左右に10秒ずつ倒す</p>  <p>※反対側の肩が上がらないように注意</p>	
<p>③肩の高さで手を組み、前にのぼして、体を左右に10秒ずつひねる</p>  <p>(1 ~ 2回)</p>	<p>④頭の上で手を組み、体を左右に10秒ずつ倒す</p>  <p>(1 ~ 2回)</p>	
<p>⑤胸の前で片方の腕を伸ばし、反対の腕で肩の方向に引き付ける</p>  <p>(左右)</p>	<p>⑥両手を肩に当て、肘を大きくゆっくりまわす</p>  <p>(前後)</p>	<p>⑦つま先を引き上げる</p> 
<p>⑧足を上下に、つま先立ちする</p> 	<p>⑨足踏みに合わせて、を前後に振る</p> 	<p>⑩ふくらはぎを軽く揉む</p> 

考案：イケあい地域災害学生ボランティアセンター（高知県立大学防災サークル）

車中泊希望者の受付に関する業務手順

【受付担当用】

1. 通常受付から車中泊希望者受付で状況を聞き取る

車中泊希望者は通常の受付を済ませ、車中泊希望者受付で状況を聞き取ります。

【留意事項】

- ・コロナウィルスに感染するとエコノミークラス症候群のリスクが高くなり、車中泊はお勧めできないことを説明
- ・後部座席で水平な状態を保てるか確認
- ・運転席・助手席での車中泊は原則として認めず、避難所を勧める。

2. 「車中泊を希望される方々へ」のチラシの配布と説明

「車中泊を希望される方々へ」のチラシをもとに、車中泊の注意事項を説明します。
裏面には防災体操を記しています。

3. 車中泊者用避難者カード、駐車許可証の記入と発行。駐車場所の決定

避難者カードと駐車許可証に記入していただきます。（避難者が記入）

【留意事項】

- ・手渡しはせずに、感染予防のためBOXから取ってもらいます。
- ・駐車位置は駐車場配置図を基に駐車位置番号を伝え記入してもらいます。
- ・駐車場配置図に車両NOを記入します。
- ・避難者カードは受付で保管、駐車許可証は避難者に渡しダッシュボードに置くよう指示します。
- ・1階外にいる車中泊支援スタッフに駐車許可証を見せ車を移動するよう説明します。

4. 車中泊者用避難者カード等の管理

「車中泊避難者カードの整理・保管と駐車場配置図を誘導係のもの」と照合します。

車中泊希望者の支援に関する業務手順

【管理班（車中泊支援）用】

1. 受付終了後、駐車位置への誘導

□ 駐車許可証を確認し、手元の駐車場配置図に車両番号を記載し、駐車位置へ誘導します。

【留意事項】

- ・ 許可証を発行されるまでは一般用駐車場に誘導。受付で車中泊許可証の発行を受けてから誘導してください。
- ・ 受付に行くのは代表者一人で構いません。（蜜をさけるため）
- ・ 業務終了後、駐車場配置図の駐車位置と車両番号が受付のものとは一致しているか突合します。

2. 巡回支援

□ 巡回は毎朝 8 時と 10 時から 18 時までの 1 時間ごとをめぐりに行います。（天気や気温で柔軟に対応）

【留意事項】

- ・ 毎朝 8 時は寝ている場合はノックをして点呼をとり、体調について聞き取りをします。
（体調と水分補給・こまめな運動の声かけ）
- ・ 車内の様子を見ながら巡回します。すべてを目隠ししている場合は 1 か所は見えるようにしておくようお願いしてください。
- ・ 気温が高い日は特に注意してください。
- ・ 許可を得ずに駐車している車は本部で呼び出しを行い、手続きを取るよう指導してください。
- ・ 一般の避難所と同様に保健師等の巡回支援を行います。

高知防災プロジェクトについて(設立趣意書から)

【活動の背景】

2016(平成 28)年度より国や県の高知港海岸整備事業で、三重防護をコンセプトとした浦戸湾周辺の地震津波対策が進もうとしています。この計画では、防潮堤の嵩上げや液状化対策等により、①発生頻度の高い津波(レベル1津波※)が陸地に入って来るのを防ぐと共に、②最大クラスの津波(レベル2津波※)が発生した場合には避難時間を稼ぐことが考えられています。

しかしハード整備だけでは、住民が避難をする時間を稼ぐことはできても、最大クラスの津波による被害を最小限にとどめることはできません。住民が「逃げる」という意識を持ち続け、行動を取らなければ、巨大地震による津波から身を守ることはできないのです。

【団体の設立目的】

私たち地域住民は、ハード整備が進捗するのを見守るだけで、安心してはいないでしょうか。防災ネットワークを強化することにより、防災意識を高めることが必要だと思います。

そこで私たち有志は、「逃げ地図づくり」やその他の新しい手法を研究・実践・普及することにより、ハード整備と並行してソフト対策の拡充に努め、地域の総合的な防災力を高めることのお手伝いをするために、この団体を設立しようと考えました。



高知防災プロジェクト

高知市旭町3丁目115 環境の杜こうち内
こうち男女共同参画センター(ソーレ)3階
TEL:088-802-2201 FAX:088-802-2205

この提言書に関する問い合わせ先
高知防災プロジェクト代表 山崎 水紀夫
[TEL:090-3782-6956](tel:090-3782-6956)

メール: yamasaki.mikio@kni.biglobe.ne.jp



さんすい防災研究所

さんすい防災研究所は2020年5月に設立した
防災関係の講演・研修・コンサルティングを行
う個人事務所です。

連絡先: 上記携帯、メールと同じ